

土木研究所

新技術の社会実装を議論

SIPシンポジウム開催

土木研究所は7月31日、新技術の現場実装をテーマとしたシンポジウムを東京都内で開催した。写真。国土交通省直轄工事の現場を対象としたパネルディスカッションでは、新技術導入を阻む「壁」として技術基準や公共調達、予算確保を挙げ、突破する方策を議論。国交省の大儀健一建設技術政策分析官は、2026年度から始まった新

な技術基本計画が社会実装に力点を置いた内容となったことを説明し、積極的に新技術導入に取り組む考えを述べた。

パネルディスカッションでコーディネーターを務めた橋梁調査会の木村嘉富専務理事は、インフラ維持管理を対象とした政府の戦略的イノベ

ション創造プログラム（SIP）が、技術の開発段階から実装段階へと移っ

たことを説明した。また、既存の技術基準の適用が優先されたり、既に実績のある技術が使われやすい傾向が、新技術の導入を阻む壁になっているとした。

大儀氏は、技術基本計画の中に、新技術の積極活用に向けた仕組みを盛り込んだことを紹介した。基準の継続的見直しや、設計段階でのNETIS登録技術との比較、技術提案評価型S



「一番大事なものは動機付けだ」と述べ、現場で働く職員一人一人の意識に働き掛ける必要があるとした。